

目標達成計画

作成日: 平成 26 年 1 月 27 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	12	グループホーム全体的に入居者の重度化が目立ってきているが、新人及び非常勤職員が多く、十分な対応が出来る体制が取れているとは言い難い。また看取り介護についても経験のある職員が少ない。	重度化や終末期のケアに対応できる職員の力量向上を目指す。	終末期を迎えた入居者がいるので、看護師が中心となってOJTによる教育を行う。また、偲びのカンファレンスやホーム内研修にて職員が整理して理解できるようにする。	6ヶ月
2	1	事業所理念を職員間で十分に共有できておらず、その実践ができていない。	理念を全職員が共有して、理念実現を目指して日々の介護に取り組むことができる。	朝礼で毎日確認する。唱和する。グループホーム玄関入ったところと、職員用のトイレ内2か所に掲示する。毎日の定例会で到達度を確認する。	3ヶ月
3	14	排泄介助や入浴介助におけるプライバシーへの配慮が十分ではなく、トイレの扉を開け放したまま介助している場面などが見られる。	言葉を発することのできない入居者も含めて、プライバシーに配慮して介助できるようになり、特にトイレ介助時には外から中が見えないように扉を閉めて介助する。	マナーインストラクターを選出し、管理者と共に職員への啓発に努める。またプライバシーや尊厳についての勉強会を実施する。	6ヶ月
4	18	入居者全体に重度化している方が増えており、外出の機会が減っている。家族からも散歩の機会が欲しいとの要望が出ている。	週に少なくとも一度は全入居者が外の空気を吸うことができる。	4階の屋上に短時間でも交代で出るように支援する。屋上での催し物を企画し開催する。	4ヶ月
5	13	災害に備えて非常食を備蓄しているものの、3日分しかない。また地域との協力体制が不十分である。	一週間分の非常食が備蓄できる。自治会の会員の方々との協力体制が構築できる。	一週間分の非常食を本部に依頼して備蓄しておく。隣近所の方々を訪問して協力を求める。自治会とコンタクトを取り、顔の見える関係をつくる。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。